

バンブルズジグ
TG SLJ



★ヨッシーがプロデュースした SLJ 専用ジグでアシストフックが標準装備。イワシや甲殻類などを捕食している魚はもちろん、シラスを偏食している魚もよく釣れる。サイズは 30、40、60、80 グラム

1投目から
正解だったね



◎青物狙いにはイワシやシラス系のカラーが効果的

細いジグほど
食わせる力が高い、
ということなんだ。

いた。「SLJは今回が初めてなんですよ」という初々しいアングラーもイナダを手にニッコリとしている。

釣っている人みんながバンブルズジグSLJを使っているわけじゃない。でも、少なくとも筆者が今シャクっているジグは今回はハズレだったようだ……。

そして、釣り開始から2時間ほどたった8時前。5流し目が始まるにあたり、筆者はついにジグを交換した。選んだのはもちろん、バンブルズジグSLJである。

「残されちゃったねえ」と野島船長に声をかけられたのは、着底からシャクリ始めたときだった。その瞬間、ズドン、というアタリが訪れた。竿がひん曲がる。魚が走る。た、楽しい……。上がってきたのはイナダだった。楽しいけど、なんか悔しい。

バンブルズジグSLJに替えただけで、そんなマンガみたいな話、ある？ だって、バンブルズジグSLJは、ヨッシーがプロデュースしたんだぜ……。

「食ったね」とヨッシーが笑っている。会心の笑みだ。

「食った」

「ジグ替えてたよね。何に替えたの？」

「……」

「釣ったジグは何？」

「バ、バンブルズジグSLJ」

「それって、だれがプロデュースしたジグだっけ？」

「ヨ、ヨッシー……」

なんだろうこの負け気分は。だが、2時間にわたって別のジグで奮闘しても（アタリはあったが）魚は釣れず、バンブルズジグSLJに替えただけで1投目でズドン、は、事実なのだ。

「そうか、おれプロデュースのバンブルズジグSLJに替えたとたんに、イナダを釣っちゃったか。はーっはっはっは」

胸を反らせて高笑いするヨッシーを止める手立てはない。

「このジグの開発には時間をかけたからね。自信作なんだよ」とヨッシー。

色いろそろえるのは面倒だから
作った「コレ1本でイケるジグ」

ヨッシーは釣りのプロだ。だから、「自分がこう釣りたい」という思いだけで製品を作ったりはしない。多くのユーザーにとってメリットのあるジグを作ろうとした。

「SLJは、今までの本格的なシギングと違って、タックルはライトで『そのと

けたからね。自信作なんだよ」とヨッシー。

「今まで色んなジグを使ってきた経験で分かったのは、細いジグほど食わせる力が高い、ということなんだ。活性が低くても食ってくるんだよ。ただ、細いぶんだけ波動が弱く、魚を呼ぶアピール力が弱いんだよね。」

逆に、幅広いジグはアピール力が強い反面、とくに活性が低いときほど食わせる力が弱いように感じる。だからこそ色んなタイプのジグが販売されているんだけど、食わせ力とアピール力の両方を備えたジグがあれば、1本で済むでしょ？ そんな風に考えて作ったのが、バンブルズジグSLJなんだ」



▲バンブルズジグTG SLJに交換した1投目にイナダを釣り上げたタカハシゴ